

病虫害発生予察情報

- 1 令和 8 年度 病虫害発生予察 予報第 7 号（10 月）
2 気 象 情 報 九州北部地方 1 か月予報（福岡管区气象台）
气象台メモ（大分地方气象台）

向こう 1 か月間における農作物の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

◎予報内容の概況

作物	病虫害名	発生面積		発生量		掲載ページ
		平年比	前年比	平年比	前年比	
水 稲	トビイロウンカ	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	-
大 豆	紫斑病	平年並	前年並	平年並	前年並	-
	カメムシ類	平年並	前年並	平年並	前年並	P.2
	ハスモンヨトウ	平年並	前年並	平年並	前年並	-
温州ミカン	黒点病	平年並	やや多い	やや多い	多い	P.2
	ミカンハダニ	平年並	前年並	やや多い	多い	P.3
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多い	やや多い	やや多い	やや多い	P.3
夏秋トマト	すすかび病	少ない	やや少ない	やや少ない	やや少ない	-
	灰色かび病	やや多い	やや多い	やや多い	やや多い	-
	うどんこ病	平年並	やや多い	やや少ない	やや少ない	P.4
	コナジラミ類	平年並	前年並	やや多い	やや多い	P.5
	ハモグリバエ類	やや少ない	やや少ない	やや少ない	前年並	-
	トマトキバガ	-	やや少ない	-	前年並	P.6
夏秋ピーマン	うどんこ病	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや少ない	-
	斑点病	平年並	やや少ない	やや多い	やや少ない	-
	タバコガ	やや少ない	やや少ない	やや少ない	前年並	-
	アザミウマ類	多い	やや少ない	多い	多い	-
白ネギ （平坦地）	ネギアザミウマ	やや多い	やや少ない	やや多い	少ない	P.7
	シロイチモジヨトウ	多い	前年並	やや多い	多い	P.8
	ネギハモグリバエ	やや少ない	少ない	やや少ない	少ない	-
白ネギ （中山間地）	ネギアザミウマ	やや多い	多い	やや多い	多い	-
	ネギハモグリバエ	やや少ない	少ない	やや少ない	やや多い	-
イチゴ	うどんこ病	平年並	前年並	平年並	やや少ない	-
	炭疽病	平年並	前年並	平年並	少ない	-
	灰色かび病	平年並	前年並	平年並	前年並	-
	ハスモンヨトウ	平年並	少ない	平年並	少ない	P.9
	ハダニ類	やや少ない	少ない	やや少ない	少ない	P.9

◎注意事項 上記一覧表病虫害のゴシック体のみ以下に個別の記述をしています。

◎特記事項 令和 8 年度病虫害防除技術情報第 6 号（ピーマン ハダニ類）：令和 8 年 7 月 22 日
令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 5 号（トマト トマトキバガ）：令和 8 年 7 月 27 日
令和 8 年度病虫害防除技術情報第 8 号（夏期における白ネギ害虫防除）：令和 8 年 7 月 29 日
令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 6 号（果樹全般 果樹カメムシ類）：令和 8 年 8 月 5 日
令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 7 号（水稻 斑点米カメムシ類）：令和 8 年 8 月 7 日
令和 8 年度病虫害発生予察注意報第 8 号（ネギ シロイチモジヨトウ）：令和 8 年 8 月 18 日
令和 8 年度病虫害防除技術情報第 9 号（ピーマン タバコガ類）：令和 8 年 8 月 27 日

大豆

1 カメムシ類

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、25株当たり虫数ともに平年より少なかった。また、発生圃場率に含まれない微発生が6圃場で確認された。

発生圃場率：0%（平年：22.7%、前年：20.0%）

25株当たり虫数：0.1頭（平年：0.7頭、前年：0.3頭）

イ 予察ほ場における9月中旬の調査では、生息虫数は平年よりやや多かった。

ウ 本虫は高温乾燥条件が続いた場合に発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は平年並30%、高い確率60%、降水量は少ない確率40%、平年並30%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫、成虫は主として着莢部に生息するので、薬剤が十分付着するように防除を行う。

イ ミナミアオカメムシは、他のカメムシ類と比較して増殖能力が高く、IRACコード「3」（合成ピレスロイド系薬剤）に対する感受性が低いため、適切な薬剤を選定する。

ウ ミナミアオカメムシの第3世代ピークは10月上旬に認められるため、幼虫の発生が多く認められる圃場では、10月に防除を検討する。

カンキツ（温州ミカン）

1 黒点病

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並、平均発病果率、平均発病度は平年より高かった。

発生圃場率：本年 57.1%（平年 56.0%、前年 42.9%）

平均発病果率：本年 40.5%（平年 16.9%、前年 9.8%）

平均発病度：本年 14.2（平年 5.1、前年 5.6）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並30%、多い確率30%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 10月以降も高温、降雨により多発することがあるので、状況に応じて収穫前日数に注意し防除を実施する。

イ 伝染源である枯枝の剪除徹底に努める。

ウ 防除に使用する薬剤は、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

2 ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生葉率ともに平年より高かった。

発生圃場率：本年 57.1%（平年 31.2%、前年 57.1%）

平均寄生葉率：本年 12.0%（平年 4.6%、前年 7.3%）

イ 本虫は高温乾燥により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 30%、高い確率 60%、降水量は、少ない確率 40%、平年並 30%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生に注意し、状況に応じて収穫前日数に注意しながら防除を実施する。

イ 抵抗性の発達を回避するため、IRACコード表を参照し、同一系統薬剤は年1回の使用とする。

果樹共通

1 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

（令和8年8月5日 令和8年度病害虫発生予察注意報 第6号発表）

(1) 予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 各地点のフェロモントラップにおける誘殺数は平年並～平年より多く推移している。

イ 本虫は高温条件で飛来が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 30%、高い確率 60%と予想されている（気象予報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類の園内への飛来は地域や園地により大きく異なるので、園内外をこまめに見回り早期発見に努める。

イ 薬剤散布はカメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時に行うと効果的であり、地域全体での一斉防除はより効果的である。

ウ 殺虫剤の多用は天敵等への影響が大きくハダニ類の発生を助長するので、最小限の使用にとどめる。

夏秋トマト

1 うどんこ病

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病葉率ともに平年より低かった。

発生圃場率：30.0%（平年 38.5%、前年 20.0%）

平均発病葉率：5.8%（平年 9.5%、前年 11.6%）

イ 本病は乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、少ない確率40%、平年並30%と予想されている（気象情報参照）。

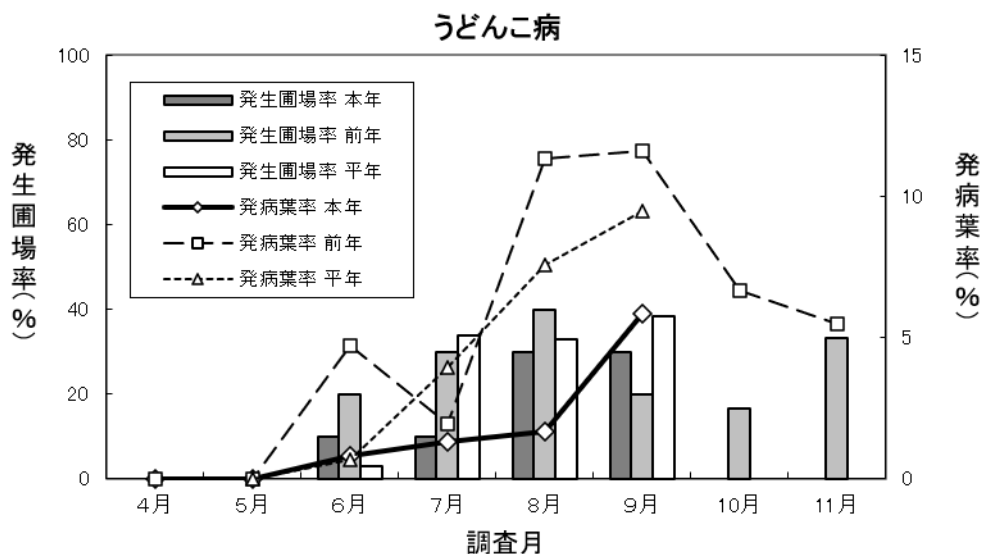
(3) 防除上注意すべき事項

ア 一旦発生すると防除が困難になるので早期発見に努め、防除は予防散布や初期散布に重点を置くとともに葉裏にも十分薬剤がかかるようにする。

イ 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布する。

ウ 発病葉は伝染源となるのでこまめに除去し、圃場外に持ち出して処分する。

エ FRACコード「3」（EBI系薬剤）は連用すると耐性菌を生じやすいので、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。



2 コナジラミ類

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや多い

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均株当虫数ともに平年より高かった。

発生圃場率：40.0%（平年 28.9%、前年 30.0%）

平均株当虫数：5.9頭（平年 1.8頭、前年 3.2頭）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 30%、高い確率 60%、降水量は、少ない確率 40%、平年並 30%と予想されている（気象情報参照）。

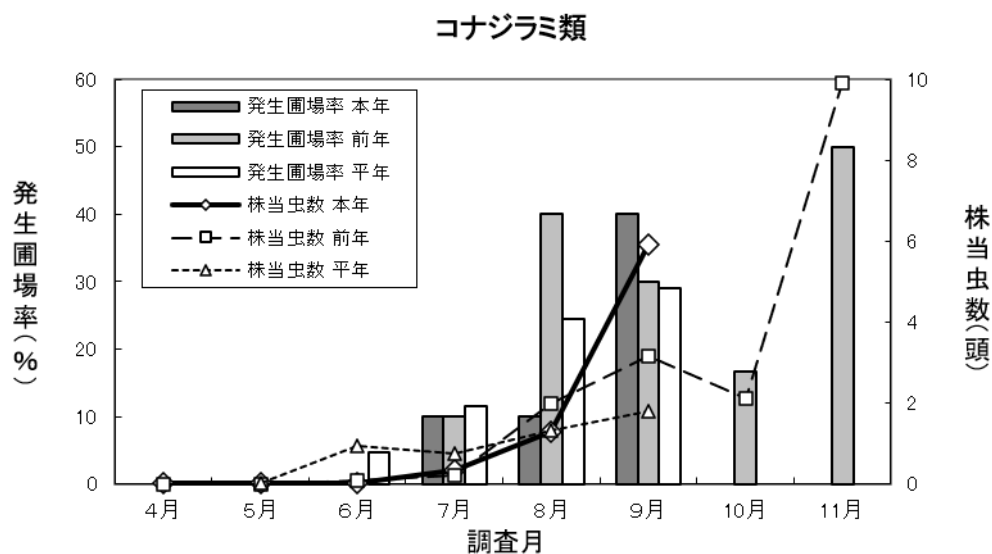
(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は葉裏に寄生して吸汁加害し繁殖も旺盛なため、早期発見に努め低密度のうちに防除を行う。

イ 本虫は多種の雑草にも寄生し増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

ウ タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）を、またコナジラミ類はトマトクロロシスウイルス（ToCV）を媒介するため、薬剤散布を徹底する。

エ オンシツコナジラミでは IRAC コード「4A」（アセタミプリド剤）に対する薬剤感受性が低下しているため、本虫を対象としたアセタミプリド剤の使用は控える。



3 トマトキバガ（令和8年7月22日 令和8年度病害虫発生予察注意報 第5号発表）

（1）予報内容

発生面積：前年よりやや少ない

発生量：前年並

（2）予報根拠

ア 9月上旬期のトマトキバガフェロモントラップ調査では、1地点当たりの誘殺数は前年よりやや少なかった。

平均誘殺数（合計）：170.4頭（前年：228.4頭、前々年：91.9頭）

イ 8月末時点のトマトキバガ食害調査では、累計34戸で葉への被害が確認された。

食害戸数（累計）：34戸（前年：105戸、前々年：16戸）

（3）防除上注意すべき事項

ア 一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで防除を行う。

イ 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。

ウ 被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに速やかに適切に処分する。

エ 県内ではトマト、ミニトマト及びナスで発生が確認されている。海外では、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。

オ 本虫と類似するハモグリバエの食害痕は、葉裏からは確認できない。一方、本虫による食害痕は葉裏側からも透けて確認できる。

白ネギ（平坦地）

1 ネギアザミウマ（令和 8 年 7 月 29 日 病害虫発生予察技術情報 第 8 号発表）

（1）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

（2）予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並、平均被害度は平年よりやや低かった。

発生圃場率：62.5%（平年：53.8%、前年：87.5%）

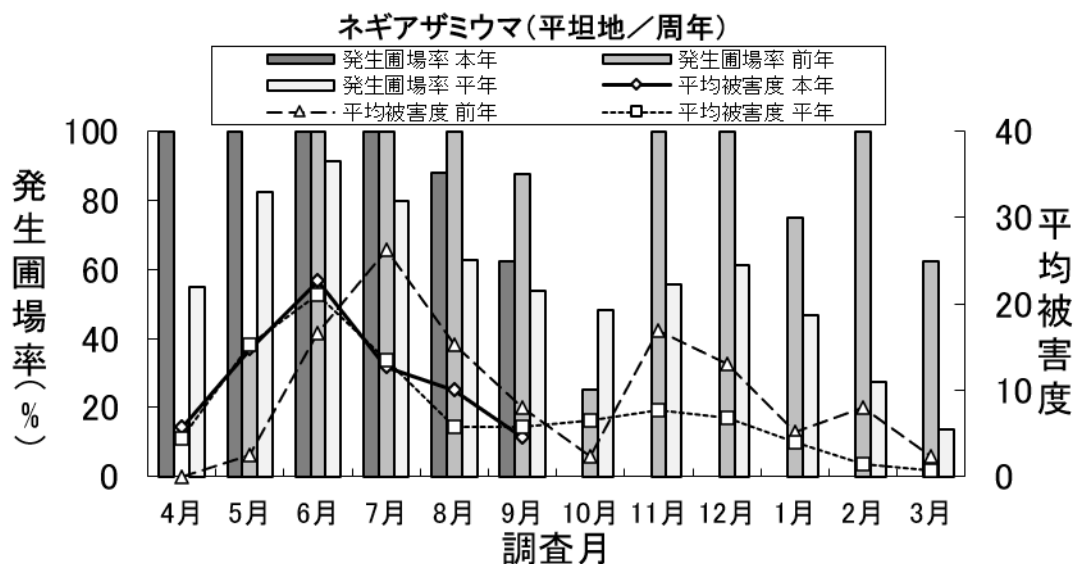
平均被害度：4.5（平年：5.7、前年：8.0）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率60%、降水量は、少ない確率40%、平年並30%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 周辺雑草が発生源となりやすいので、圃場内外の除草を徹底する。

イ 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、防除を行う。



2 シロイチモジヨトウ（令和8年8月18日 病害虫発生予察注意報 第8号発表）

（1）予報内容

発生面積：多い

発生量：やや多い

（2）予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査では、発生圃場率は100%で平年よりやや高く、平均被害葉率は平年より高かった。

発生圃場率：100 %（平年：81.3%、前年：87.5%）

平均被害葉率：17.3%（平年：8.6%、前年：6.0%）

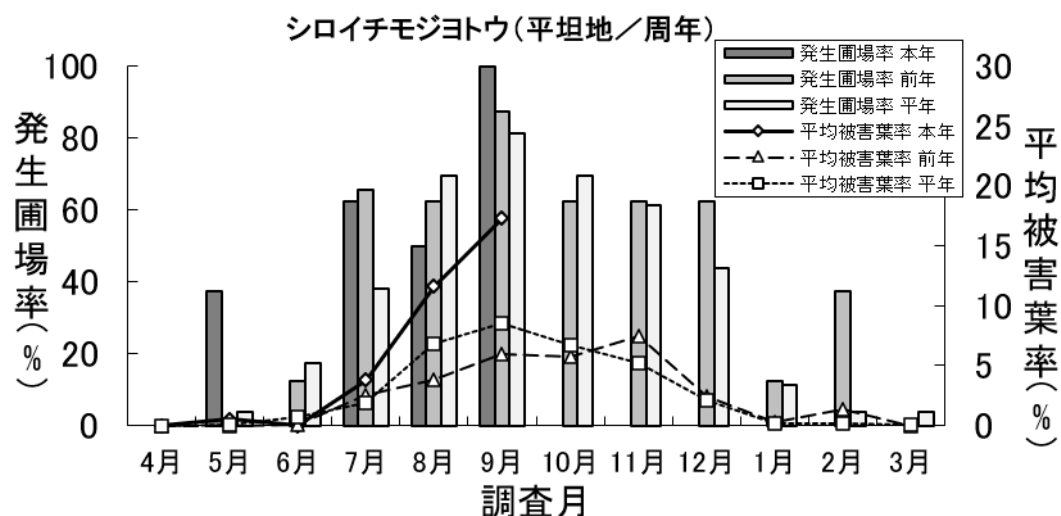
イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率60%、降水量は、少ない確率40%、平年並30%と予想されている（気象情報参照）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 本虫は成長に伴って防除効果が低下するため、早期発見に努め防除を行う。

イ 本虫は薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、IRACコード表を参照して、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。

ウ 一部地域の個体群でIRACコード「28」（ジアミド系薬剤）、IRACコード「15」（フルフェノクスロン）およびIRACコード「18」（クロマフェノジド）に対する感受性の低下が確認されたため、散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控える。



イチゴ

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査（育苗圃）では、発生圃場率は平年並、平均被害株率は平年より低かった。

発生圃場率：10.0%（平年：11.3%、前年：30.0%）

平均被害株率：0.4%（平年：1.0%、前年：1.2%）

イ 農業研究部に設置しているフェロモントラップによる9月の雄成虫誘殺数は、9月3半旬現在では平年より少ない状態である。また、県内各地に設置しているフェロモントラップの雄成虫誘殺数は、9月以降、ほとんどの地点で平年並、または平年よりも低く推移している。

ウ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率60%、降水量は、少ない確率40%、平年並30%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は多食性で、多くの野菜、花き類を加害するので、圃場の見廻りを行い、発生状況に注意する。また幼虫の加害が続く場合には早めに防除する。

イ IRACコード表を参照して、同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。

2 ハダニ類

(1) 予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 9月中旬の巡回調査（育苗圃）では、発生圃場率、平均寄生株率ともに平年より低かった。

発生圃場率：10.0%（平年：32.2%、前年：30.0%）

平均寄生株率：1.6%（平年：14.8%、前年：13.6%）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率60%、降水量は、少ない確率40%、平年並30%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、葉裏を中心に防除を行う。

イ 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、薬剤散布後に防除効果の低下が見られる場合は使用を控えるとともに、天敵（カブリダニ類）の導入を検討する。

ウ 2回目以降の天敵放飼は、ハダニ類が確認できない場合でも予防的に実施する。

エ 乾燥条件下になるとハダニ類の活動が活発になり、天敵の活動が抑制される。

※ 薬剤の詳細は大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針、又は各地区防除暦を参照する

気象台メモ

大分地方気象台

◎ 九州北部地方（山口県を含む）1か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・ 発 表：令和8年9月24日（毎週木曜日に発表）
- ・ 予報期間：令和8年9月26日～令和8年10月25日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率が70%です。2週目は、高い確率が50%です。3～4週目は、高い確率が50%です。

【向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）】

要 素	予 報 対 象 地 域	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
降 水 量	九州北部地方（山口県を含む）	40	30	30
日照時間	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40

◎ 九州北部地方（山口県を含む）3か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・ 発 表：令和8年9月18日
- ・ 予報期間：令和8年10月～令和8年1月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平均気温は、平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

10月天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

11月天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。

降水量は、平年並または多い確率ともに50%です。

12月平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

降水量は、多い確率ともに40%です。

【向こう3か月の気温、降水量の各階級】

3か月	気温：高い	降水量：平年並か多い
10月	気温：高い	降水量：平年並か少ない
11月	気温：高い	降水量：平年並か多い
12月	気温：高い	降水量：多い

【向こう3か月の気温の各階級の確率（%）】

気 温	予 報 対 象 地 域	低い	平年並	高い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	10	40	50
10月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
11月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
12月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50

【向こう3か月の降水量の各階級の確率（%）】

降 水 量	予 報 対 象 地 域	少ない	平年並	多い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40
10月	九州北部地方（山口県を含む）	40	40	20
11月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	30
12月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50

◎ 最近 1 か月の天候経過（令和 8 年 8 月下旬から令和 8 年 9 月中旬の天候）

8 月下旬（高温）

天気は、高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、湿った空気や日射の影響により曇りとなる日があった。気温は、平年よりかなり高かった（高温）。降水量は、佐伯と蒲江で平年並だったが、平年よりかなり少ないか少なかった。日照時間は、平年よりかなり多いか多かった。

25 日は豊後高田で「日最高気温の高い方から」の通年の 1 位の値を更新した。

26 日は湯布院で「日最低気温の高い方から」の 8 月の 1 位の値を更新した。

※大分市の旬平均気温は 30.2℃で平年よりかなり高かった。旬降水量は 0.5 ミリで平年より少なかった。旬日照時間は 99.5 時間で平年よりかなり多かった。

9 月上旬（寡少）

天気は、前線や台風、熱帯低気圧のほか、湿った空気の影響を受けて曇りや雨となる日が多く、大雨となった日もあった。気温は日田と中津が平年より高かったが、他は平年並みか平年より低かった。降水量は蒲江で平年よりかなり多く、他は平年より多いか平年並みだった。日照時間は、平年よりかなり少なかった。

※大分市の旬平均気温は 25.6℃で平年並だった。旬降水量は 137.5 ミリで平年より多かった。旬日照時間は 8.3 時間で平年よりかなり少なかった。

9 月中旬

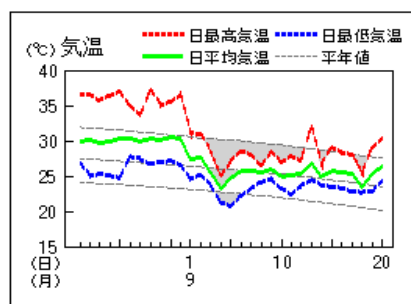
令和 8 年 9 月中旬の気象概況

天気は、高気圧に覆われる日もあったが、前線や気圧の谷、湿った空気の影響で曇りや雨が降る日が多く、雷を伴う日もあった。気温は、平年より高いか平年並だった。降水量は、平年並で日田と武蔵が他は平年より少なかった。日照時間は、蒲江では平年並だったが、他は平年よりかなり少ないか少なかった。

※大分市の旬平均気温は 25.4℃で平年より高かった。旬降水量は 60.0 ミリで平年並みだった。旬日照時間は 22.1 時間で平年よりかなり少なかった。

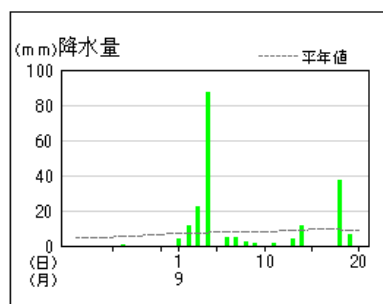
地上気象 気象経過図：2026年08月21日-2026年09月20日

大分



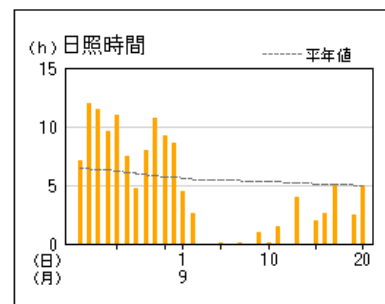
地上気象 気象経過図：2026年08月21日-2026年09月20日

大分



地上気象 気象経過図：2026年08月21日-2026年09月20日

大分



地上気象 気象経過図：2026年8月21日～2026年9月20日

適正防除はホームページで!!

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

または

病虫害対策チーム

検索



農業研究部

病虫害対策チーム

葉根菜類・茶業チーム

果樹グループ

花きグループ

地域農業振興課

安全農業班

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部 病虫害対策チーム

〒879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8

Tel. 0974-28-2078

Fax. 0974-22-0940

大分県農林水産部地域農業振興課 安全農業班

〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

Tel. 097-506-3661

農薬は正しく安全に使いましょう!